

東大EMP第16期プログラム 最終報告発表 概要

(2017年3月4日)

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
<p>[チーム1] 上田 茂 熊崎 多香子 関 孝和 中込 敬介 宮崎 芳人</p>	<p>健康的で活力のある 超高齢化社会経営</p>	<p>快働を切り口とした社会経営 日本丸</p>	<p>科学技術の進展と経済成長による豊かさは世界一の長寿をもたらした。その反面、社会保障費の急増による経済破綻、少子・高齢化による国力低下の懸念が広がり、日本の将来への悲観的な捉え方が蔓延しているかのようにも思える。一方、高齢化問題が掲げられた1996年より2017年の現在まで、日本の財政は破綻せず、GDPは世界3位の位置につけている。</p> <p>超高齢化と当面の人口減少を所与として、社会経営の視座から日本社会(日本丸)の現実を再認識し、2025年からの高齢化の山場を乗り越え、その歯止めがかかる2060年以降のために、我々は今からどのような社会を築いていくのか。その方向性を提言していきたい。</p>
<p>[チーム2] 上村 直子 仙波 章臣 戸谷 敏啓 藤田 竜也 森川 世紀</p>	<p>資源・エネルギー活用 の規律による環境保 全</p>	<p>世界に先駆ける日本の地球 温暖化対策</p>	<p>異論を持つ人も一部見受けられるが、地球の気温が上昇傾向にあるのは事実である。</p> <p>地球温暖化に対する認識はあるものの、緊急の課題として受け取られておらず、日常生活において主体的な取り組みがなされているとは言い難い。</p> <p>技術の進歩により、2050年頃には再生可能エネルギーの最大限の利用達成や水素を使ったエネルギー社会実現は期待できるが、それまでの期間の温暖化による気候変動や人口集中、食料問題などは依然残るものと予想される。</p> <p>温暖化という課題解決には一人ひとりの問題意識の醸成と課題解決のための行動が必要である。地球温暖化という課題をどうしたら身近に感じられるか、そして、どうすれば「今」行動を起こせるか、自然と温暖化対策に参画できるようにするにはどうしたらよいか。この実現に向けた社会システムを提案し、まず日本において規律ある資源・エネルギー活用を実現したい。</p> <p>その後、日本における成功モデルを世界に向け発信し、COP21のような世界的規模の取り組みを進めば、必ずや温暖化の影響を押しとどめることができるものと考えます。</p> <p>地球という限られた空間において、人類の共存共栄を将来の長きに渡って持続できるように、今こそ行動につなげたい。</p>

<p>[チーム4] 荒木 智行 市川 敦 北島 隆次 羽中田 淳 真鍋 武久</p>	<p>多様な宗教、文化、政治を前提とした共通行動規範確立</p>	<p>～あしたのために～</p>	<p>今までにないスピードで、ヒト・モノ・カネ・情報が行き交う現在、様々な言語・宗教・文化を持つ人たちとの交流や共存が不可避のものとなっている。そして、そうしたヒトや文化の交流によって、これまでの生活様式や価値観を大きく揺るがされた人々が相互に不安に陥り、結果世界中で宗教や文化、政治間のコンフリクト(衝突)が懸念されるようになった。</p> <p>昨年6月のブレグジットや11月のトランプ大統領誕生はそうしたコンフリクトからなる不安や不満が政治という公共の世界で顕在化した象徴的事件である。これらの事件は単に移民に仕事を奪われるといった経済的側面だけでは語れない宗教的、文化的、政治的側面が根底にあるものと考えられる。グローバル資本主義と高度IT化社会の到来は、これらの動きを加速化させており、私たちも決して対岸の火事ではいられないかもしれない。</p> <p>上述のような危機が忍び寄る世の中において、チーム4では、決して悲観的になることなく、「あしたのために」をテーマに、個人あるいは企業・行政・国際社会など社会を構成する主体が、どのような共通規範をもって行動すべきかを本最終報告にて提示することで、より良い世界を切り拓いていきたい。</p>
<p>[チーム5] 秋山 純 神谷 誠 鈴木 章一郎 鶴丸 和洋 檜垣 慎司 山本 政行</p>	<p>先端科学・技術の効用前提での新世界観の形成</p>	<p>先端科学・技術の効用前提での新世界観の形成</p>	<p>科学技術の進展スピードは近年加速している。その結果、科学技術の発展の恩恵を受けて人々の生活は豊かになっているし、人類の問題のいくつかに対して解決策を提示している。</p> <p>同時に、今までの経験則では、人々の先端科学技術に対する理解が追い付かないため、科学技術の恩恵を十分に受けられないケースが散見される。</p> <p>人類が先端科学技術の効用を十分に享受し、豊かな生活を実現するためのソリューションスペースを提案したい。</p> <p>まず、「トランスサイエンスの領域」といった、科学技術の問題の中には、科学だけでは解決できないものが増えており、社会といった科学を超えた次元での議論が必要である。加えて、リスクの可視化をすること、専門家や一般の人々のサイエンスリテラシーを引き上げること、最後に新プロフェッショナル倫理の確立を通し、現状の課題解決を目指す。</p> <p>その上で、チーム5の考える新世界観を提示したい。</p>